

「えほん、ありがとう」たどたどしい字や、かわいい絵の礼状を続々いただいています。被災した子どもたちに本を贈る『いっしょだよ』キャンペーンで、これまでにお届けした幼稚園や保育所の子どもたちの喜ぶ笑顔が見えるようです。募金をいただきました皆様、ありがとうございます。年内は続けてまいります。現在会員登録数681人さま。次号は11月22日発行予定です／

---

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 14

《3》 サイト紹介 ―子どもの本をリサーチする―

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

---

【1】お知らせ

●「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。11月6日（日）の午後で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）です。申込み締切は10月24日（月）必着です。 詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/01\\_kids/index.html#ohanashimono](http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#ohanashimono)

●「第28回ニッサン童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（月）です。 詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

●東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る―

・その1『いっしょだよ』募金のお願い!

子どもたちに本を!被災地の学校、幼稚園、保育所、地域文庫などに子どもの本を購入して送ります。ご協力をお願いします。

・その2「本の寄贈を希望される施設」の募集!

学校、幼稚園、保育所、児童館、地域文庫など施設の年齢対象、人数等にあわせ、適当と思われる本を購入し保護カバーをつけて送付します。

上記2件とも 詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>

お申込み／お問合せ：当財団『いっしょだよ』キャンペーン事務局

主 催：財団法人 大阪国際児童文学館 / 大阪府書店商業組合

毎日新聞社 / 毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

●寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

---

## 【2】コラム

---

\*\*\*\*\*

### 《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『アライバル』 ショーン・タン/著 河出書房新社 2011年4月

あらすじ：一人の男性が妻と娘を残して見知らぬ国へ移住する。移住先のアパートでペットに出会い、一緒に過ごし始める。言葉が理解できないまま、食べ物を見つけ、職を探し、さまざまな人と出会い、最後に家族を呼び寄せる。言葉を使わずに絵のみで表現した本。

O：大型でずっしりと重い迫力のある絵本ですね。はじめて見たときから、著者の仕事には注目してきましたので、やっと、原本そのまま出版されてうれしいです。

Y：一人の男性を主人公にしながら、その男性の家族、出会った人々の過去がコマ割りの映像的な画面で描かれています。

O：アルバムのような装丁で実録を描いているように見せながら、そこに描かれる世界は架空のものです。特定の家族や国ではなく、普通の人々の過去の記録・家族史の集積とでも言えるものに出来上がっているのがすごいですね。

Y：懐かしさはセピア色で統一された画面や、紙の皺からも感じられます。コマ割りで構成された画面をめくると見開きいっぱい描かれた風景があり、圧倒されます。

O：その風景に描かれている建物や配置されている物を一つ一つ見ていくと、既視感のあるものが数多くあらわれてきて、さまざまな文化的背景のものが一つの空間に重なり合って描かれているようです。著者は、風景を「視覚的な比喩」と言っておられますが、どこにもない風景でありながら、どこにでもある・あった風景なのです。

Y：表紙に描かれているのは一人の男性（タンさんがモデルだそうです）とおたまじゃくしとネコが合体したような生き物が出会っている場面です。

ほかにも鳥とエリマキトカゲの合体の生き物など不思議な生き物が多く登場します。最初は違和感のある動物たちも何度も出てきているうちに親しみを感じてきます。この絵本は読者のそのような気づきをうながしていると思います。

○：著者が移民二世のオーストラリア人であって、アボリジニを侵略してきたさまざまな民族が住む短い歴史の国のなかで育ったという背景が、独自の世界観を生み出したのでしょうか。自分をどう位置づけるのかという問題に常に直面して生きてこられたのは確かでしょう。

Y：このような不安感はその多くの画面に描かれる大きな影に象徴しているようにも見えます。タンさんのどの作品でも影はとても印象的です。

○：ごく普通の暮らしやありふれたものを、隅々までいとおしく描いている作品を見ると、しみじみと「小さな平和」の有難さが身にしみてきます。『アライバル』は、一人ひとりに「どう読んだの？」と聞いてみたくなるような、読者に開かれた作品です。

\*\*\*\*\*

## 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 14

\*\*\*\*\*

### 「その5 絵本の選び方(9) 絵本を評価する：形・大きさ」

絵本にとって形や大きさはとても意味があります。横長の本を開くととても横に長い本ができ、高い建物を描くにはあまり適していませんが、水平に広い空間を描くにはとても迫力があります。一方、開いてちょうど正方形ぐらいの大きさになる縦長の絵本は、安定感があり、落ち着いて画面を見ることができます。縦に細長い本は、空から地面までというような垂直方向に長い空間を楽しむことができます。

本の大きさも作品のイメージに大きく影響します。『ピーターラビットのおはなし』（ビATRIX・ポター/作 福音館書店）は手のひらサイズの小型本です。小型であるからこそ、農場の片隅で暮らしている小さなうさぎたちの様子をのぞきみるというイメージを持ち、作品世界を楽しむことができます。あの本が大きかったら、これほどには多くの人に支持されなかったことでしょう。

一方、大きな生き物が登場する絵本では、大きな画面いっぱいとその生き物が登場することで迫力が増します。『はらぺこあおむし』（エリック・カール/作 偕成社）はミニブックも出版されていますが、あおむしが蝶に変身した最後のページは大きいからこそ迫力を感じます。

近年、ビッグブック（大型絵本）が流行し、多くの絵本が大型化されています。しかしながら、必ずしもすべての大型絵本が成功しているとはいえないと思います。大型の絵本は大勢の子どもたちの前で読むのに適しているという声を聞きますが、もともと絵本は2～3人で楽しむものであり、無理をして大勢で楽しまなくても、元の大きさで楽しめる人数で楽しめばいいのではないかと思います。

もちろん、『えんそく』（片山健/作 架空社）のようなオリジナルの大型絵本もあり、これが理想だと言えます。また、『きょだいなきょだいな』（長谷川摂子/作 降矢なな/絵 福音館書店）のように大型化したことで迫力がでて楽しい絵本もあります。けれども、元の大きさと読むときと、大型絵本で読むときでは、読み方も変化します。そういう意味では、本の大きさが異なるということは別の絵本だと考えるべきだと思います。

以上のように、作品内容に適した形、大きさになっているかということも本の評価の重要な観点の一つです。

\* 次号では「その5 絵本の選び方(10)絵本と読者 赤ちゃん～中学生まで」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思いません。(Y)

\*\*\*\*\*

### 《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

資料所在データベース14回目。今回ご紹介するのは、次のサイトです。

●京都国際マンガミュージアム <http://www.kyotomm.jp/>

近年、国内のみならず、世界からも注目されるようになった日本のマンガ。2001年には日本マンガ学会が創立され、マンガが学的な対象となることで、研究資料の整備が求められるようになりました。

こうした動きを反映して、マンガ資料の収集・保存をベースに、マンガ文化の振興を目的として作られた施設が京都国際マンガミュージアムです。全国唯一のマンガ学科を持つ京都精華大学と京都市の共同事業で、資料は、明治期以降の雑誌、戦後の貸本から現在のものまで、さらに海外のマンガなど約30万点（2011年現在）に及びます。集めた資料は調査研究に活用するとともに、一般利用（閲覧）にも供されています。マンガに特化した施設としては、全国屈指といってよいでしょう。

資料の検索は、上記HPから「所蔵資料」ー「所蔵資料検索」とクリック。

「キーワード」「年代」「作者」の3項目で調べることができます。

例えば、1940年代を見てみると、「のらくろ」の田河水泡から大城のぼる、芳賀まさる、阪本牙城や宮尾しげをといた、戦前戦後に日本の児童マンガを牽引した作家の作品が出てきます。また、水谷まさるや川上四郎、奈街三郎ら、児童文学の書き手の作品もあり、まだまだ児童文学とマンガが未分化だった時代を感じさせます。

現在、HPからは30万件すべての検索ができるわけではありませんが、他では見られない資料が見つかるかもしれません。マンガを検索したい場合は、ぜひお試しください。(J)

※次号は、資料所在データベース篇〈その15〉の予定です。

\*\*\*\*\*

### 《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

ここは大阪キタの街、天神橋6丁目角のビル。9階にのぼると、あら不思議、そこは浪花の町のなか。ぶらり歩けば江戸時代に迷い込む―「大阪くらしの今昔館」に行ってきました。開館10年記念「大つくりもの 浦島太郎と龍宮城」が開催されていました。天保2年（1831年）の「大坂」の町並みが再現されています。10階から見下ろす、夕焼け空と屋根瓦の景色がきれいです。細い路地から着物を着た子どもが走り出てきて、一瞬目を疑います。

町並みフロアに降りると、大きな「亀に乗った浦島太郎」に出迎えます。「つくりもの」は、神社の遷宮などのお祝い事があると町家の屋根の上などに飾るもので、大阪が発祥とされています。「龍」は、商店の壁を数軒突き抜けて顔を出す形につくられていて、始めは尾の部分しか見えません。吊るされた「魚」がゆらゆら揺れて、海の中のようなようです。奥には「乙姫様」が太郎を待つように立っていました。それらは紙を貼りあわせて作られ、鮮やかに色づけされていて、素朴な懐かしさを感じました。

建ち並ぶ店屋の中に入ることもでき、お風呂屋の様子が見られたり、人形屋では昔懐かしいおもちゃで遊んだりできます。裏長屋のつましいくらしの様子もうかがえます。ふと気がつくと、天井が明るくなり、朝の鳥の声が聞こえてきました。時間につれ景色やBGMが変わるのです。ひとときのタイムスリップを楽しむことができました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ●田島征彦絵本原画展

会 場：大阪府立大型児童館ビッグバン

期 間：開催中 11月13日(日) まで

内 容：堺市出身の絵本作家、田島征彦氏の代表作品の一つ「じごくのそうべえ」などの絵本原画。旧・大阪府立国際児童文学館に所蔵されていた。

おはなし会：おはなしポップ

10月23日（日）、11月12日（土） いずれも午後2時から

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《1》「ＹＯ！この本読んだ？」で紹介しました『アライバル』を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.14プレゼント希望」とし、

(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメル

マガのご感想 をお書きのうえ [office@iiclo.or.jp](mailto:office@iiclo.or.jp) にお送りください。

締切は11月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／



飄々とした優しいまなざし、あたたかい笑顔。常に子どもとともに歩もうとする凜とした姿勢は終生変わることがありませんでした。10月13日、当財団特別顧問の中川正文先生が90年余の生涯を全うされました。当財団の設立発起人のお一人で、1998年から2005年まで理事長をお務めいただくなど、長年にわたり当財団の歴史を築いてこられ、児童文学の振興に大きな足跡を残していただきました。ご冥福をお祈り申し上げます。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、  
[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---